

●○○●● 主な内容 ●○○●●  
 第 45 回創大祭  
 アカデミックアワード  
 SKP  
 ○●○○●●○○●●○○●●○○●●○○  
 2016 年 (平成 28 年)  
 4 月 2 日 発行  
 第 26 号

# 創大 学 友 新 聞

-THE SODAI GAKUYU SHIMBUN-

【発行所】  
 創価大学学友会  
 東京都八王子市丹木町 1-236  
 郵便番号 192-8577  
 電話 (042)-691-0806  
 .....  
 © 創価大学学友会 2016 年  
<http://gakuyukai.soka.ac.jp>

# 第45回創大祭



本年度も、創大祭が盛大に行われた。本年は天気にも恵まれ、昨年を超える賑わいを見せた大成の創大祭であった。

創大祭は、大学の創始の年から創立者を大学へ呼ぼうとの学生の想いから生まれた創価大学の一大イベントである。この日に向け各クラブでは研鑽や練習に大いに汗を流しこの日を迎える。

今回も二日間に及んで行われた創大祭では、各クラブの演目はもちろん、展示に模擬店の数々が創大を色とりどりに彩った。その飾られた創価大学はいつも以上に活気が溢れ、学生はもちろん来学者の笑顔が至る所で輝き渡っていた。

創大の展示は基本的に、学術局団体を中心に多くは展示されており各団体の一年間の研究の成果や研鑽の成果を思う存分に発揮する機会となっている。これらの展示は、創立者の哲学根本や、クラブの特色をこれでもかと詰め込



んだ最高の努力の結晶の数々である。

文芸団体は、創大祭の本番に向けて全精魂を懸けて練習してきた成果を発揮し、観に来て下さる目の前の方一人の為に音楽や踊り、歌を届けたい。それは、観た全ての人の心を揺さぶるような内容であった。この感動は、「何のため」という根本精神を忘れずに紡いできたものであるからこそ生れた輝きである。

体育会以外の文芸・学術団体また、創大祭実行委員会とは別に創大祭の期間は試合があることが多い。そのため、展示などは行えないが、創立者にお応えするとの想いで場所は違えど試合での勝利を目指して戦っている。また、試合がない団体は、模擬店などに精を出し、創大に来た来場者を威勢の良い声で盛り上げ、美味しい食べ物を提供し、創大祭を盛り上げている。



このようにクラブ団体の一つの決算の場がこの創大祭であり、他の大学にない活力に溢れた大学祭であることに間違いはない。大学祭一つにしても、しっかりと目的感と使命感をもつてやるがこの創大祭の大成を支えている一つの因になっていると考える。この創大祭がいつまでも続くためにこれからもこのクラブ団体の発展が欠かせない。

私たちのクラブ活動が続く限りこの精神が引き継がれていくことは間違いない。



## 青春の光

ヒップホップや日本舞踊などの華やかなショー、平和について様々な視点から研究された展示、大学外で戦う体育会の創大生……。創大祭では、それぞれのクラブで活動する創大祭が、そのクラブにしかできない戦いをしている。創大祭まで、毎日遅くまでクラブ活動に打ち込む創大生こそが、新たな創価大の歴史を作っていることは間違いない。

「桜梅桃李」という言葉がある。「桜梅桃李」とは、桜は桜の、梅は梅の、桃は桃の、李は李の独自の美しい花を咲かせることから、それぞれの特徴をそのまま生かしていくとの意味である。私たち人間は、それぞれ多様性を持っている。それを尊重し、調和させていくことで、人生はさらに充実していく。このような様々な人生経験や、多様な考え方を持った創大生の、努力の集大成である創大祭は、もっとも創大生が自分らしく輝くことのできる場である。

# アカデミック・アワード

創大祭では学術局のクラブ団体を中心として、クラブによる展示も大きな賑わいを見せた。展示では各クラブが日頃の活動で学んだことをぶつけた。そして展示企画には、アカデミックアワードと呼ばれるなどの団体の展示が良かったかを訪れた方に投票してもらった企画がある。賞には創立者後継賞、平和賞、献賞、Public賞、Wisdom賞、Hospitality賞がある。今回は創立者後継賞 Save Children Network、平和賞 献賞 東南アジア研究会・Mission Hands、Public賞 創価幼稚園研究会、Wisdom賞 沖繩平和研究会、Hospitality賞 パン・アフリカン友好会だった。Save Children Network は今回の受賞でなんと3年連続の創立者後継賞の受賞となった。



今回は、創立者後継賞を受賞された Save Children Network の創大祭時の部長である44期 酒本泰毅さん、現部長45期片倉和美さんにインタビューさせて頂いた。

Q. 展示内容について教えてください。

A. (酒本さん) 栄養不良についての展示を行いました。テーマ決めの際、展示を見に来てくださる方の心を動かしたいという思いが部で強くなりました。日本では当たり前でも、海外では当たり前ではありません。食べることが出来ない子供達亡くなってしまふ子供達のことを伝えました。また、その解決策を部で考えたものも展示しました。

Q. 創立者後継賞を受賞されたときの気持ちを教えてください。

A. (酒本さん) 創大祭の展示は実長連の一人として戦っていました。学友会からの電話で受賞したことを知り、知った時は号泣しました。みんなの顔を想像した時に、SCNの名前がアカデミックアワードの授賞式に呼ばれるのと呼ばれないのとはみんなの顔がぜんぜん違うのと思っていました。創立者後継賞を受賞したと皆が知った時、皆泣きながら喜んでくれました。原点とすることができ本当に嬉しかったです。一人の心を動かすためにやっていました。また、先輩方が2年連続で受賞されてきたプレッシャーもありホッとしました。

(片倉さん) 一人の部員として創大祭に望みました。正直始めは創大祭の展示に重みを感じてはなかったです。でも創大祭の準備のときに、先輩方が意見の食い違いなどでぶつかったり、熱心に取り組まれている姿を見て、熱い気持ちが変わってきて私の展示に対する気持ちも変わっていききました。そういった部員の皆で展示を作ったからこそ、創立者後継賞を受賞することが出来たのだと私は思います。2年連続で創立者後継賞を受賞しているというプレッシャーなどはねのけ創立者後継賞を受賞された先輩の姿を見て感動し、涙しました。

Q. どのような想いで活動されていきましたか。  
A. (酒本さん) みんなでつくる創大祭にしたい、部の全員で歓喜したいという想いで活動していました。入ってくる各学年によって展示への想いは

変わってくるため、2、3年生主体で展示を作っても部としての歓喜は生まれないと考え、創立者の御指導を押しながら、常に何をすべきかを考えました。創大祭の展示で伝えたい事を一言で言えば創立者の思想です。SCNがSCNの展示をするためには創立者の思想がないといけないとの想いで活動していました。創大祭の片付けの際、創立者のお車が通られ、私はトロフィーを持って追いかけてました。お会いすることは出来なかったのですが、だからこそ受賞しても足りないものがあつたのだと捉え奮起することができました。

(片倉さん) 創立者を心でいつも求め、いつ来られてもいいようにとの想いで活動していました。また、創立者後継賞を受賞できたのは本当に先輩方のおかげだと感じています。創大祭の準備期間は忙しかったですが、先輩、同期との距離が一気に縮まり、絆が深まりました。

Q. 後輩に伝えたい事はありますか。

A. (酒本さん) SCNで先輩には原点を築いてもいいです。SCNを人材輩出、人間革命の場としてほしいです。悩んでいる時など、互いにおつかり合うときは絶対にあると思います。SCNが世界平和を目指す団体であるからこそ、「真の絆で結ばれゆく大団結」というSCNの理念にもあるように、SCNの部員全員が世界平和の団体でありたいです。SCNが平和であり続けること、そこから必ず世界平和につながっていくと考えています。

(片倉さん) 私はSCNに入って、創大生の自覚を感じる事ができました。様々な自分の経験からSCNの理念の「創大建設の先駆を切る組織」という通りに、SCNに入った子にはその想いに立ってほしいです。

Q. 今後について教えてください。

A. (片倉さん) まずは全員で団結して一人一人を見ていきます。誰一人として寂しい思い、つらい思いをさせません。SCNが真の平和団体となるよう一人一人が心がけていく団体を目指していきます。SCNの最大目標である世界平和を目指し、一人一人が自分に何ができるかを考えるきっかけを作っていきたいです。創立者一番で頑張っていきます。

## 体育会

創大祭が盛大に開催される中、創大祭に参加せず、外で戦っていたクラブがある。スポーツの秋であるこの時期は、多くの体育会のクラブのリーグ戦期間、大会期間であり、創大祭の日に試合があるクラブも少ない。これらのクラブも、創立者に結果でお応えし、創大祭の名を広く社会に広めようと奮闘している。暑く厳しい練習が続いた夏を乗り越え、今こそ、その成果を残そうと、リーグ戦や大会に臨んだ。創大祭期間に試合のあったクラブは、アメリカンフットボール部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部、弓道部、キックボクシング部、男子ハンドボール部、ラグビー部である。こうした多くの創大生が、創大祭とは別の場所で、創大建設のために戦っていた。



その試合を応援にいった学友会局員は、「みんな創大のために、創立者のために、自分たちのために、絶対に結果を残してやろうという、強い思いを感じました。本当は創大祭に出たいという気持ちもあつたと思います。しかし、それ以上に、『自分にかできない使命を果たそう』と、強い精神で戦っている姿に、感動を覚えました。」と語る。今いる自分の場所で勝利し、自分にかできない使命を果たす。こうした創価大学の発展のために、ともに力をつくれた体育会クラブの創大生を、今後とも、大学をあげて応援していきたい。

## KCA

9月21日、22日にKCA(後期クラブアピール)が開催された。KCAとは、クラブに入っていない創大生のため、新しい仲間を探している団体さんのため、クラブの良さをしってもらうためのイベントである。今年の後期クラブアピールテーマは、新たな場所へと一歩踏み出す「勇気」を持って、現状を打開するために「挑戦」し、より輝かしい「未来」を切り開いていこうとの思いから、「勇気・挑戦・未来」というテーマを定めた。当日、多くの創大生が2日間、約80のそれぞれ違う団体との懇談を楽しみ、部活の良さをさらに知ることができた機会となった。また、前期代議員会で決まったクラブツアールも同時に開催され、クラブから創大を盛り上げていこうという意識が高まっている。



後継委員長若菱あゆみさんに挨拶いただきました。

後継委員長を務めておりました、42期の若菱あゆみです。この1年間、SKPを通して少しでも多くのクラブ員さん同士が繋がりを、局を超えて励ましあってくることができればと思います。活動してきました。また、SKPに関わる全局員が、創立者の想いを後継する、という大きな使命を持って会の運営を支えてくれました。これからまた皆さんのクラブ員さんが創立者の想いにふれ、互いに刺激を与えながら、より充実した大学生活を送れることを心から願っています！



## SKP

今年度最後のSKPが開催されました。最後のSKPの研鑽会では『創立者の人生は素晴らしい』の「ありがたうは奇跡の言葉」についてみんなで楽しく研鑽しました。研鑽後は感謝の言葉を述べる一言発表が行われ

